

国内拠点：アジア高校生国際会議

三小田 博 昭

(1) 目的

2015年度から開催しているGlobal Discussionを発展させ、「アジア高校生国際会議を2019年度は名古屋大学で実施した。私たちの生活環境は、グローバル化にともない加速度的に変化し続けている。かつ私たちの生活は、衣食住の全てにおいて世界の人々と互いに密接に関係しており、日本国内の企業も様々な形で世界の国々と繋がっている。今回の「アジア高校生国際会議」では、現在のグローバル化に関して、経済学を中心とした社会的な視点か『2030年の社会 ～SDGs 展望と課題～』をテーマとして、自分たちが将来のグローバル社会で活躍するためには、なにが必要なのかを、アジアの高校生と一緒に考えることを目的とした。

英語を共通言語として行い、スキルとしての英語力向上ではなく、英語を通して論理的に他者に表現するなどの、コミュニケーション能力を向上させることや、課題発見・課題解決力、合意形成力、妥協力を育成することも目的とした。

Global Discussion (2015-2018)

※日本人高校生だけが英語で議論。名古屋大学留学生がTAとしてサポート

2015年度

「将来、自分たちに必要とされるグローバル人材としての能力」

2016年度

「移民を受け入れよう。—それまでに私たちが必要としておくこと—」

2017年度

「自由主義経済と保守主義経済の衝突 ～日本はどうあるべきか～」

2018年度

「インバウンドについて考える
—東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに社会はどうかわるか—」

アジア高校生国際会議 (2019)

※日本とアジアの高校生が英語で議論 名古屋大学留学生がTAとしてファシリテート

2019年度

「2030年の社会 ～SDGs 展望と課題～」

(2) アジア高校生国際会議 (2019) イメージ



(3) 参加者

日本の参加校 () 内は参加生徒数

- 愛知県立旭丘高等学校 (6)
- 愛知県立瑞陵高等学校 (5)
- 金城学院高等学校 (5)
- 南山高等学校女子部 (5)
- 名城大学附属高等学校 (5)
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校 (3)
- 名古屋大学教育学部附属中・高等学校 (6)

アジアの高校生出身国 () 内は参加生徒数

- ブルネイ (3) カンボジア (9)
- インドネシア (26) ラオス (11) マレーシア (23)
- ミャンマー (12) タイ (15) ベトナム (16)
- スウェーデン (1) フィンランド (1)

(4) 日程

日時 8月18(日)～20日(火)

内容

18日(日)

13:00～日本の高校生のみで事前学習・情報収集(附属学校)

19日(月)

9:30～名古屋大学 松尾総長あいさつ
開会宣言、名古屋大学G30の紹介(経済学部)

9:45～テーマに関する基調講演

10:45～休憩・移動

11:00～グループ活動

11:45～グループごとに南部生協移動

13:00～割り振られたテーマに関して小グループでの討論

17:30 終了予定

20日（火）

9:00～ポスタープレゼンテーション 大学教員による講評

11:45～南部生協で昼食

12:45 豊田講堂出発

13:45 大須商店街散策（発表グループ単位）

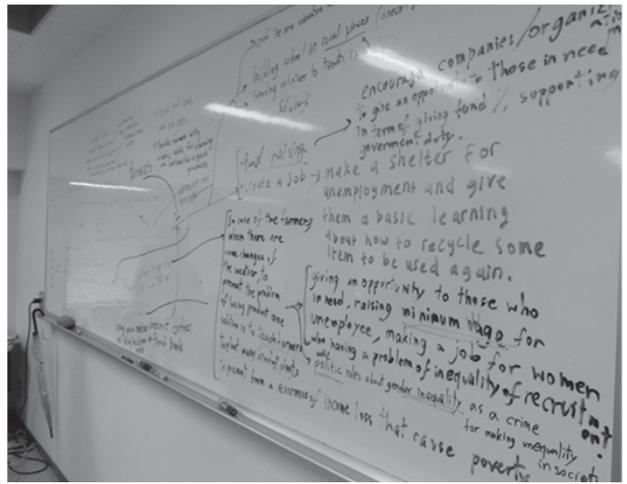
15:00 名古屋城へ移動

15:45 名古屋城入城（発表グループ単位）

17:30 解散（名古屋城正門にて）



(5) ディスカッションの様子



(6) 昼食交流の様子





(7) プレゼンテーションの様子

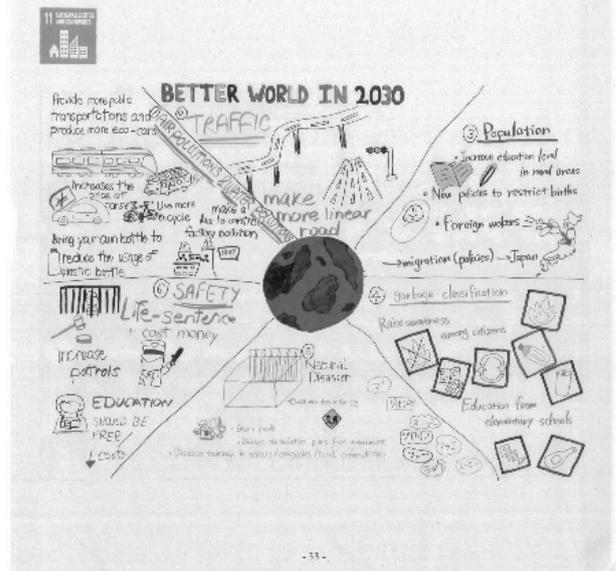
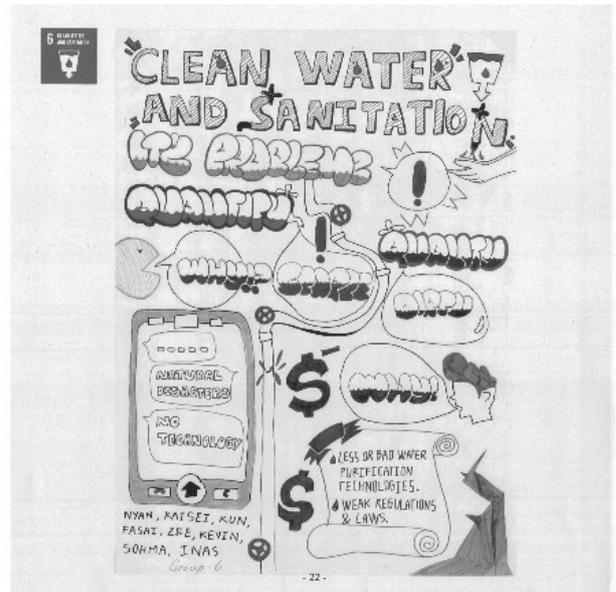
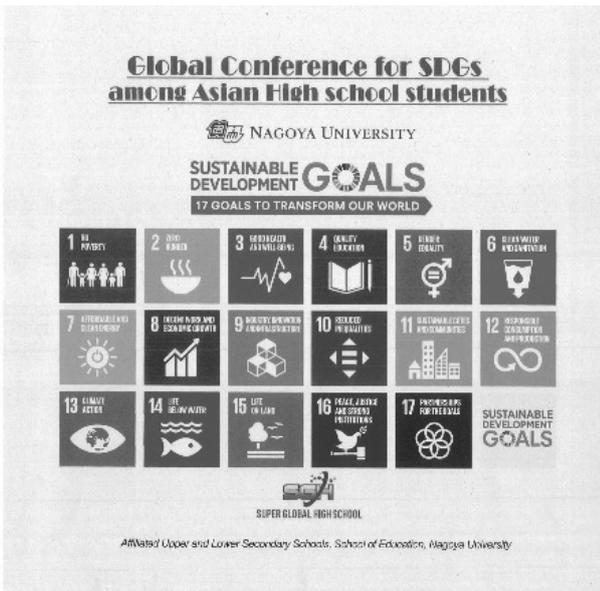


(8) 参加生徒の感想

- 英語力はまだまだだったけれどニュージーランドでの生活や英語でのディスカッションの経験が少しずつ自分の自信につながっていたことに気づきました。今回は、身振り手振りも使いながらではあるけれど言いたいことがあったら自分で言って話し合いや講演の内容も自分の力で大抵分かるようになったことを実感できて嬉しかったです。だからこれからも日々の単語など小さなことを積み重ねて英語でもより深い話しができるように努力していきたいです。
- 自分でこれに参加する前にジェンダーについての問題は一通りは把握して参加したつもりでしたが、まだまだ足りなくて知らないことばかりでした。名古屋でもプライドパレードが行われていたことや、#Me too運動、#Ku too、など知らなくて自分一人のできた気になっていたんだと思い知らされました。
- 英語で積極的にコミュニケーションをとることやお互いのぶんかについて学ぶこと、そしてそれぞれの意見をもって議論することはもちろん、それを通じて自分自身や身の回りの環境を再認識でき、また英語学習や文化交流の重要性をはだで感じる事ができた。今回学んだことは、これから来る交換留学生と関わる際にも活かされ、さらに自分の学習や卒業研究、そして進路や国際交流の機会にも活かしていきたいと考えている。

(9) SGH事業の普及

成果普及の一環として「アジア高校生国際会議 画集」を作成し、HPにアップした。



(10) アジア高校生国際会議の意義

SGH研究指定が始まり、Global Discussionを4年間実施していた。しかし日本人高校生が、英語で話し合うことが主であったため、なかなか意思疎通がうまくいかないことがあった、名古屋大学の留学生をTAとしてきて、話し合いをサポートしてもらっていたが、日本語が混じることが多くみられた。TAに何かと頼ってしまう場面も多くあった。今回は、Global Discussionで得た「成果と課題」を校内で議論し、アジア高校生国際会議を開催することとなった。日本人だけで話し合っていたGlobal Discussionとはことなり、アジアからくる同世代の高校生と議論をすることで、価値観の違いから生まれる意見の相違、考え方の相違が顕著に表れ、日本人高校生もより深く考えることができた。また、一方で今回のアジアの留学生は、「アジア架け橋プロジェクト」で長

期来日する高校生のオリエンテーションを兼ねていた。今回の「アジア高校生国際会議」で日本の高校生と触れ合い、議論をすることで、今後日本各地に散らばり、それぞれが学校生活を過ごす「心の準備」ができた。「アジア高校生国際会議」日本人高校生とアジアの高校生との双方にとって得るものが大きいことになった。SGH研究指定が終了するが、この取組を次年度以降も継続して実施していく計画である。

※「アジア架け橋プロジェクト」

アジア諸国で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘し、ホームステイや寮生活をしながら日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深めることで、日本の高校生の留学意欲や国際的素養の向上、日本とアジアの高校ネットワークの構築、互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成に資する取組を、高校生の留学・交流を扱う民間団体を通じて実施します。(文部科学省HPより)

(文責 三小田博昭)